

より良い親子関係講座

NO 94

「産業社会は家族の中のまず父親を、そして若者を、やがては女性達を家族から引き離して取り込んでしまうだろう。そこに現代における家族の危機がある」

ジグムント・フロイド

大家族から核家族へ、少子化、女性の社会参加の増加などといった急激な社会環境の変化は必然的に家族の形態を根っこから変えざるを得ない状況にまで波及しています。このような急激な変化の渦に巻き込まれるように、子ども達の問題も次々と顕在化しています。

不登校者は2020年度、小中学校における長期欠席者の数は287,747人、そのうち不登校の児童生徒数は196,127人に及ぶことが文部科学省「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」で明らかになっています。高校を中退する子どもは公立高等学校の中途退学者数は55,668人（中途退学率2.1%）、私立高等学校の中途退学者数は26,131人（中途退学率2.4%）です。そして18歳未満の子どもへの児童虐待は、30年連続で増え続け、2020年度は過去最多の205,029件になっています。20万件を超えたのは初めてのことで、前年度より5.8%（11,249件）多くなりました。

他にも「陰湿ないじめによる自殺」「非行の低学年齢化」「学級崩壊」「引きこもり」など数多くの問題が挙げられます。このような深刻な記事が紙上に載るたびに、果たして親として、また大人として何を基盤として子ども達を導けば良いのか、頭を抱え込むのは私だけではないでしょう。

また、幼稚園から大学まで果てしなく続く受験戦争の中で育った子ども達が求めているものは、ひたすら孤独を癒す「ゲーム」「携帯電話」「インターネット」など。一見孤独な遊びに思えますが、彼らは「分かち合ってくれる誰か」を探し求めているのではないのでしょうか。コロナが蔓延する中で、ストレスを抱えた子ども達の心を癒し、勇気（エネルギー）を与えてくれるのは、本来「家族」の働きです。家庭、地域、そして学校とそれぞれが変革を迫られています。未だ手探りの状態です。たとえ未来にどのような革新的な家族の形態が生まれようと、家庭は家族の一人ひとりが安らぐことのできる場所であり、家庭が心の支えの場であって欲しいと思っています。私は、リーダーの皆様がAP講座を開かれるたびに、「よかった！これで一つの家族が救われた」と安堵しています。

私たちAPリーダー（講師ではない）の役割はAPを伝えるということ。手法として、受講生一人ひとりを励ましつつ、気づきを促し、本来の受講生の持つ力を引き出していくという教育的なものです。もちろんその中には、APの考えや効果的なやり方などをわかりやすく伝えていくことも大事なことです。

さて、冒頭でフロイドは「・・・女性達を家族から引き離して取り込んでしまうだろう。そこに現代における家族の危機がある」と言いましたが、APはその危機を回避するチャンスを与えます。たとえ子どもと関わる時間が短くとも、子どもを心から信頼し「共感と勇気づけ」さえあれば必ず子どもとの関係は上手いきます。日本でAP講座が始まって以来40年近く、私たちリーダーも含め、これまで受講した方々（世界で400万人）によって、APの効果は実証されているのです。これからもコツコツとAPを一人ひとりの親や大人に確実に届け、より良い家族関係のために、また家庭が安心できる居場所となるように、伝え続けていきたいと思っております！



♡ハローフレンズ♡

Dear AP Friends:

Here we are enjoying another springtime, which brings us the thrill of another season of cherry blossoms, azaleas, mums, and all sorts of fresh veggies and fruit later on.

I hope you and your family came through the winter unscathed by the threat of Covid or other illness. The one thing that has dampened the spirits of all of us in the free world is the attack Russian's Putin has made on the peace-loving folks in Ukraine. I read that Japan is allowing some Ukrainians to come into Japan, and I was happy for that.

Here in the U.S., we are trying to provide help for thousands of Afghans who escaped the Taliban threat to their lives. My daughter Kathy and I have been helping an Afghan Family of eight since the first of December.

It has been a very busy time, especially for Kathy, as we helped them settle into a house, got the children their necessary shots and enrolled into schools here in Liberty. The big hurdle has been getting them licensed to drive. The father and 17-year-old had both driven in Afghanistan. The son soon passed the written test. The father, however, does not know English and has failed the written test five times. Next week he will use an interpreter and try again. Their attitude is "Never give up!" so I believe they will overcome any of the hurdles before them.

They are a warm, loving family who immediately informed us we are "family." The husband and wife call me "Mother" and the seven children call me "Grandmother." Sadly, they got separated from their older son during that stressful time in the Kabul airport last August. We would like to bring him safely to the U.S. as soon as possible.

Last weekend I attended a fun birthday party for Asma their daughter who just turned nine. Kathy had also invited some of the other folks who have helped the Family in their adjustment to this country.

Besides my new Afghan Family members, I have another very special new family member. Kathy's daughter, Katrina, and her husband Ryan have a baby daughter, Nina Irene, born February 9, which makes me a Great-grandmother. I happily met her this week; she is precious!

I hope your AP classes are going well. It is a joyful experience to reach out to another Family and help them become more complete, whether they are Afghan, Ukrainian, or Japanese.

June Seat, Founder & Friend, APJapan

親愛なるAPの皆様

私達は今、新たな春の到来に心躍らせています。桜、つじ、菊が開花し、新鮮な野菜や果物がしだいに採れ始める季節となりましたね。皆様やご家族は、冬の間、新型コロナウイルスや他の病気の脅威から無傷で過ごされたことを願っています。ただ自由な世界に生きるすべての人々を意気阻喪させた出来事は、平和を愛するウクライナの人々へのロシアのプーチンの攻撃でした。日本はウクライナ人を国内に受け入れていると聞いて、嬉しく思っています。

ここアメリカでは、タリバンによる脅威から逃れて来た何千人ものアフガニスタン人を支援しています。私と娘のキャシーは、アフガニスタン人の8人家族を12月1日から支援しています。彼らが住める家を探し、子ども達に必要な予防接種を打たせ、この自由な国で学校に通わせるために娘のキャシーは特に忙しくしていました。大きな障がいとなったのは運転免許証の取得でした。父親と17歳になる男の子はアフガニスタンで運転していたのですが、息子の方はすぐにペーパーテストを合格できたのですが、父親は英語を習得していなかったため、ペーパーテストを5回も失敗しました。来週、通訳者を連れてもう一度挑戦する予定です。彼らは「決して諦めない!」という姿勢を持っています。なのでこれからどんな障がいがあっても彼らには乗り越えられると信じています。

彼らは温かく、愛のある家族で、私達のこともすぐに「家族」と呼んでくれました。夫婦は私のことを「お母さん」と呼んでくれます。そして、7人の子ども達は、私を「おばあちゃん」と呼んでくれます。悲しいことに、彼らは長男と昨年8月にあのカブール空港の緊迫した状態の中で離ればなれになってしまいました。一日も早く、アメリカに安全に連れて来たいと思っています。先週、アスマちゃんという9歳になった娘さんの楽しい誕生日会に招かれました。私の娘のキャシーは、彼らがこの国に落ち着けるよう支援して下さった他の仲間たちも招待していました。

私の新しいアフガニスタン人の家族の他に、もう一人とても特別な家族が与えられました。キャシーの娘カトリナと夫のライアンは、女の子の赤ちゃんを授かったのです。名前はニナ・アイリーン。2月9日に生まれました。私はこれでひいおばあちゃんになりました。今週この子と会うことができ、本当にかわいくて嬉しかったです。

皆様のAP講座が順調にいくことを願っています。他の家族が健やかな家族となるために手助けすることは喜ばしい経験です。その家族がアフガニスタン人、ウクライナ人、日本人であっても変わりませんね。

ジューン・シート

APジャパン創設者&友より

翻訳：中村 聖架



リーダー資格取得おめでとうございます ～最終レポートより～

私は現在、非常勤で保育士の仕事をしています。3歳児クラスでのことです。おやつを早めに食べ終わったAちゃんは、みんなが食べ終わるのを待っています。手持ちぶさたのAちゃんは、近くにいた私を見つけて言いました。「せんせー！みどりせんせー！」「なあに？Aちゃん」と私。「せんせー、こっち来てー」彼女は話せる近い距離にいますが、近くに来て欲しいと言っています。私は彼女のすぐ側まで行き、しゃがんで視線を合わせました。Aちゃんは私の顔を見てに私ここにこしています。何も話し出しません。そう、用事がある訳ではないのです(笑)。私達はしばし、にここにこしたまま、お互いの顔を見ていました。そして私は言いました。「Aちゃん可愛いねえ、大好きだよ。」「Aちゃんもみどりせんせい大好き！」この様子を見ていた向かいに座っているBくんが今度は私を呼びました。「せんせーこっち来て！」こっちといっても60センチしか離れていないのですが、私は60センチ移動しました。「なあに？Bくん」「Bもみどりせんせい大好き！」「先生もBくん大好き！Bくんもかわいいねえ。」するとBくんは深く頷きます。ちなみに、小さい人達は「○○ちゃん可愛いねえ」と言うほとんど例外なくうなづいて同意します。これを我が家の中学3年生の次男に言うとうどうなるかということ、大抵はちょっとはにかんで「そう？」と言います。小学6年生の三男に言うとも毎回「当たり前だ！だって俺だもん」と言います。

子どもはどんな時代でも、どんなに環境が変わっても、コロナ渦でも、愛し愛されたい欲求が根底にあり、これは変わることはありません。これは大人も同じですね。この欲求が満たされないと、大抵は何らかの問題が起きる。その逆に何らかの問題があったとしても、この欲求が満たされると、大抵の問題は解決に向かうと思うのです。あらたまった場面やイベントでなくても、私達の生活のあちらこちらには小さな「愛情を伝えるチャンス」がたくさんあります。私はそれを敏感に見つけられる大人でありたいなあと考えています。

栃木県宇都宮市 原山 みどり

いま私達は国際社会に生きています。独り孤島で生きているわけではありません。子ども達は家庭から社会へと、人と人との繋がりから新しい未来を生み出していくのです。人は他者と繋がり、助け合って生きているのです。より良いコミュニケーションによって問題解決の方法を学び、協力することの価値を学ぶことがますます重要になっています。

我が家には三人の息子がいます。三人とも、とても愛おしいです。三人三様それぞれの個性が宝物です。長男が思春期に入ってから、親子関係に悩むようになりました。正直とても驚き、戸惑いました。もともと仲良しの親子だったのに、なぜ？

そのような中、私はAPを受講しました。そして、コミュニケーションの壁にハッとしました。APを学んでから、最近では、「親も子ども達にいろいろ教えてもらい育ててもらっている」と以前にも増して心からそう思います。子育てを通して多くのことを学び気付くことができたのですから本当にありがたいです。APとの出会いは偶然ではなく必然だったのですね。お互い人として尊重し合って、それぞれ持っている意見を交わし分かり合うことができるようになれば協力関係もできてきます。「親も子もお互い育てあって人として尊敬できるかどうか」それが家庭教育では特に大事なことだと私は思います。

「相手に尊敬の気持ちをもって傾聴するということの大切さ」が人類というファミリーの中で私達の最重要事項だと思うのです。ウクライナ危機も然り、戦争なんてありえません！

カリフォルニア州 射場 理佐



Leader's Journal

私とAP その不思議な巡り合い



APを学ばれている皆さんお元気ですか？群馬県でAP講座を開催している斎藤昌昭です。2009年にこの「リンク」に初めて文章を載せていただきましたが、今回2回目の投稿となります。2004年に初めてAPに出会い、リーダーとなって、以後講座を年1～2回ほど開催し、早18年の時が流れました。

今思うとAPとの出会い、それは不思議な出来事でした。私は1980年に医師となりましたが、その当時は、一つの診療科(分野)で研修しその専門医となるのが一般的でした。私は、一人の人間(子どもも大人も含めて)を医学全般や関係する学問の知識を持って総合的にみてゆきたいと思っていましたので、一つの診療科でその見方ができる小児科を選んだのです。

またその頃は不登校の子どもが増え始めたり、虐待をうけている子どもが増え始めてきた頃でした。そのような子どもが受診に来ても、従来のように体を診察し検査をおこなっても異常は見つかりません。「何で学校へ行かないの?」「将来困るよ。」「頑張って行きなよ!」などと(今から考えると)子どもとの間に「コミュニケーションの壁」を見事に作ってしまいました。これでは子どもも答えてくれるはずはありませんでした。

そこでさらに広く医学的に人間をみる方法を探し「心身医学」を学ぶようになりました。人間を身体、心理、社会、倫理の各分野を考慮しながら診療をおこなうというものです。特に心理学には興味を持ち、いろいろな本を読んでいた。その中でもアドラー心理学は、自分にとって今までの人間の見方を覆すとても衝撃的な学問でしたし、実際普段の診療に応用できるものでした。そのため関連の本を読んだり講座に参加して学びました。そんな2004年のとある日のことです。いつものように医学書専門店に行って各診療科の書物を眺めていたと

ころ、きれいな水色の本が書棚の一番上に1冊だけポツンとあるのが目に入ったのです。



背表紙には鮮やかな赤い文字で「より良い親子関係講座」と書いてありました。

「親子関係はとても大切で子どもには重要な環境だよ」と思い、なんとなく手に取って見たところ・・・

「第1章 子育ての三つのスタイル」の冒頭にはアルフレッド・アドラーの言葉が載っています！早速購入して読み、APジャパン代表の野中利子先生にお電話し、受講希望の旨を伝えました。

野中先生からは、トレーナー・リーダーの有賀麗子先生をご紹介戴き、当時私の勤務先であった群馬県赤城村の診療所にてAP講座を開催して戴きました。その後私はリーダー資格を取得し、翌年には講座を開始しました。珍しさのためかニーズがあったためか30名の方々(一般の方に加え保健師、看護師、養護教諭、心理カウンセラーの方々等)にご参加いただきました。2019年には、診療所まで野中先生にいらしていただき、私を含む3名にトレーナー及びリーダーの養成をお願いすることができました。(写真)野中先生、有賀先生本当にありがとうございました！

現在は群馬県のトレーナー、リーダーの方々と一緒に「ぐんま家族の和を育む会」として、AP講座(Zoom受講や会場受講)、リーダー育成、講演等を実施してゆこうと準備中です。

あのAP講座の本がなぜ医学書専門店に1冊だけあったのか、その理由は分かりませんが、そのおかげでAP講座に巡り会い、現在の自分の大切な行動指針となっています。また各地で活躍されているトレーナーさん、リーダーさんと知り合うことができ、勇気をたくさんいただいています。最近の国際情勢では民主的な人間を育てることの重要性をしみじみと感じています。ますますAPの必要性は増してゆくでしょう。私もこの群馬の地でAP講座をひろめて行きたいと考えます。「リンク」を読んだ皆さんの皆様とともに今後も一步一步前進してゆきたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

あおぞらファミリークリニック院長
APジャパン認定トレーナー

斎藤昌昭

トレーナー資格取得 おめでとうございます

トレーナーになった今

2020年、リーダーとなり5年目の私にある日訪れた嬉しいお話し♪コロナ禍によりお子さんの通う学校が休校中の友人から、「子どもとの関係が気になるのでこの機会に関わり方を学びたい！」と連絡がありました。それまで一人で講座を受け持つ事はなかった私。嬉しい気持ちと不安な気持ちが入り乱れつつも、友人の胸を借りるつもりで講座を開きました。それが私のトレーナーを目指すうえでの第一歩でした。

その後は講座を開くたびに「やっぱりAPは素晴らしい！」と実感する日々。講座を受けながら、ママ達は自分を振り返り、それぞれのキーポイントを見つめ、時には涙し、励まし合い成長する。そして私は、講座を開くたびにいかに自分がわかったつもりでいたのかと気づき、必死にAPと向き合いました。本当にお互いに学び多き時間です。

私は、APの最大の魅力は「受講生もリーダーもトレーナーも、講座を通して共に育っていけること」だと思っています。教えると言うよりも、受講生の方の考えや想いを引き出しあえるようなファシリテートを行う事。それがより良い講座につながるために大切な部分だと思います。受講生の方々はそれぞれ沢山の経験や知識、考えを持っていらっしゃいます。講座のなかで、逆に私が学ばせてもらうことも沢山あり、こうしてお互いが学び合えるのはとっても素敵なことです♪

私が昨年末に受講させていただいた野中先生のTOTはまさにそのような研修でした。先生のお話しは、どれも興味深く、説得力があり、魅力的でした。そして私の話を引き出してくれるような問いかけや共感力。

どれも安心して話せる雰囲気は至福の時間であり、私が求めたいファシリテートを感じる研修でした。

リーダーとなり、より深まるAP。そしてトレーナーとなり、さらに深まるAP。是非、リーダーの方々にもトレーナー研修にチャレンジし、更にAPの良さを実感していただきたいと思います。

これからも共に育つトレーナーになるべく進んで行きたいと思っています。こんなにポジティブになれたのもAPの力！この出会いに感謝し、友人にも感謝し、いつも応援してくれる家族にも心を込めて感謝です。最後にいつもありがとう💕

東京都八王子市 廣瀬 妙子

過渡期

2022年1月。TOT(トレーナーオブトレーニング)セミナーを修了し、リーダー養成講座の主催資格を取得しました。リーダーからトレーナーになりました。

2017年10月。リーダーを取得しチャンスとご縁をいただきながら公共施設でのワークショップ・講座の共同開催、お話し会、個人講座と、無我夢中、我武者羅？で走り続ける段階から徐々にマイペースで講座を続けています。

昨年のある日、野中先生から「もう『TOT』が受けられるわよ。」とお声掛けをいただきました。トレーナー認定…私に必要だろうか？リーダー養成…リーダーさんを育て、講座が出来る様になるまでフォローをして行くななんて私に出来るだろうか？その後何度かお声掛けをいただきましたがあまりピンと来ず、なかなか首を縦に振ることが出来ませんでした。何故なら『AP講座を開催し続けて行く事』『受講生さん達にいかに分かり易く、響く内容をお伝え出来るか』『効果的なフォローの仕方』などの目の前の課題に日々翻弄されていたからです。そしてまた、公共施設での講座も2時間という決められた短い時間の中で、どうしたら講座を担当してくれるリーダーさん達の負担を最小限に抑え、受講生さん達とコミュニケーションが取れる講座が出来るのかに頭を悩ませ、何度も何度も野中先生と話し合いを重ねて来ました。

そんな中、育休中の2人のお母さんから個人講座受講のお申し込みをいただきました。お申し込みにし
の差はあるものの、お2人共仕事復帰まで後2、3ヶ月しか無い方達でした。

『トレーナーだったら受講生さんたちに負担をかける事なく6回で講座が出来るのに…。』
ふと私の子ども達が幼稚園生だった時、父母会の役員にお声掛け下さった理事長先生から言われた言葉
が頭をよぎりました。『出来るか出来ないかではなく、やるかやらないか。ですよ。』『やるか、やらな
いか。』そもそも私はトレーナーになりたいのか？

AP講座は一生のライフワークとして、需要がある限り細く長く続けていきたい。続けていく中でいつ
か受講生さん達からリーダー養成講座の要請があった時、他のトレーナーさんに依頼するのか？いつか必
要となる日が来るかもしれないのなら、今がタイミングかもしれない。福岡に住んでいる今の内に…。と
納得出来た次の瞬間、野中先生にTOT受講のご連絡をしていました。

最終的に育休中だったお2人には6回講座は間に合わず、10回講座で頑張ってもらっています。私も本
業や子どもの習い事の送迎の合間を縫って、対面とzoomを駆使して(平日夜21:00～のzoomの方も)。私
の頭がついて行くのが精一杯ですが、これはこれで良い経験の機会をいただいたと頑張っています。

APと出逢い7年目。やっと10回講座の要領を得始めたところではありますが、これからは6回講座の
構成に取り掛かろうと思います。トレーナーとして、家事に子育て、仕事にとフル回転で忙しい毎日をこ
なす頑張り屋のお母さん達のニーズに少しでも合った、心に寄り添うオーダーメイドの講座を提供して行
ける様に、自分なりに進化して行きたいと思います。

福岡県福岡市 朝長 真由美

Leader's recommend



『ちいさなあなたへ』
アリソン・マギー

シンプルな言葉の数々に、涙なしでは
読めません。母になれたことへの感謝
の気持ちが溢れ出す名著。

大人にこそ読んでもらいたい絵本。子
どもへの尊敬や子どもを信じる事の
大切さが描かれています。



『てん』
ピーター・レイノルズ

子育てに仕事に講座に、毎日忙しいお母さん
(特にリーダーさん!) におすすめ。本当に大
切なものを見分け、シンプルで悔いない、それ
でいて楽しい人生を生きるための参考書です。

「自分だけの答え」を見つけて行動することは、
これからの時代ますます大切になってきます。美
術鑑賞を通して、思考力を磨く方法を教えてくれる本。美術館へ行きたくなること間違いなし。



『13歳からのアート思考』
未永 幸歩著



『エッセンシャル思考』
グレッグ・マキューン著



お母さんが
一番
好きなのは？

ある夜のことで。「トントン」ドアを叩く音がします。「なあに？」とドアを開けると、3才の結がパジャマ姿で立っています。「どうしたの？ おしっこ？」「うん、もう終わった」「じゃ、なあに？」という、ウンと顔をかしげてだんまり。

「何でも言ってごらん？」私は結の前にひざまずき目線を合わせます。すると結は私の耳元で内緒話をするように「ねえ、お母さんは誰が一番好きと？」と囁きました。「お母さんは結ちゃんが一番好き！」私も結の耳に両手を合わせてそっと応えました。すると「よかった！」と言って、結はニッコリ笑うと、トコトコと自分のベットへ戻って行きました。

あくる日の夜のことで、再び「トントン」とドアを叩く音がします。「なあに？」とドアを開けると5才の章が立っています。章はパパの古くなったワイシャツをリメイクしたお気に入りのパジャマを着ています。「おしっこ濡らした？」「いや」「じゃ何？」あのねと言うと「お母さんはさ、ボクたちきょうだいの中で誰が一番好きと？」「そりゃ、章に決まってるじゃん！」「やったね！」章は得意のVサインをすると、そおっとベットに戻って行きました。

それから、またまた数日後の深夜のことで。スーと、ドアが開きました。こんな夜更けに迷惑な子は誰だ？ ビックリして飛び起きると、薄暗い部屋の入り口に8歳の長女千が立っています。「どうしたとね？」と私。すると暗闇から「子どもの中で、誰が一番好きとー？、お母さん」眠そうな千の声です。「誰って、そりゃ一番はじめに生まれた千が一番よ」「そうよね。当たり前、当たり前」それだけ言うとドアを「パターン」と閉めて、千はそそくさと戻って行きました。なんだ？ 夢か？

さて、今日は私の誕生日です。残念だけど誰も気がつきません。子ども達は元気一杯。それだけでもいいか！ 自分のために普段よりも少しだけ品数多く夕食を作る。そこに「ただいまー」と、タイミング良く夫が帰って来ました。今日はあまり疲れていない声だな。夫の声で、テレビを見ていた子ども達は、一斉に玄関にお出迎えです。

「お母さん、お母さん大変だよ。来て、来て。早く、早くってば！」興奮気味の章が玄関とキッチンの間を行ったり来たりしています。「何なの？、な～に？」と玄関に急ぐと、なんと、玄関に真っ赤なバラの花束が！「お誕生日、おめでとう！」。花束の中から夫の声がします。え～、私こんなでっかいバラの花束なんて今まで見たこともないよ。「なんでー、なんでよー。もう、どうしたのよ」「誕生日、おめでとう！」夫がそうやって花束を差し出しました。「わあ、嬉しいーい、ありがとう。こんなの初めてよ、うれしいなあ！」真紅の薔薇の花束のプレゼント。それも38本なんて、初めての経験だ。感激のあまり思わずウルウル。子ども達も「パパすごい！すごい！」と手を叩きながら、ピョンピョン飛び跳ねています。

すると、何を思ったのか、章が「アア、やっぱりね～。ボクもそう思っていたんだ。パパはお母さんが一番好きなんだ。やっぱりねー。ボクが思っていたとおりのだった！」なーんて言いながら、ずっと興奮しっぱなし。

私はバラの花を花瓶に挿しながら「ごめんね。みんな、聞いて！、お母さんが一番好きなのはパパでした！」と、誰に聞かれたわけでもないのに告白。すぐに側にいた結が小さな声で「一番じゃなかったけど・・いいよ」とつぶやく。章は「やっぱりねー、ボク、ずっと前からそう思っていたっちゃん！」まだ叫んでいます。家の中は薔薇の香りと子ども達の笑顔でいっぱい。最初で最後の「バラの花束」、あの時は嬉しかったな～。





APジャパンの
インスタグラム
できました！



* APをより多くの人に知ってもらうために、APジャパンの公式アカウントを開設しました！

テキストの内容や、講座で一コマ、野中のつばやきなどを投稿していく予定です。リーダーさん同士の対談映像もアーカイブ中。フォロー&メンション、シェア大歓迎です。お知り合いの方にもぜひご紹介ください。

@active_parenting_japan



* Youtubeに「AP nonaka channel」を開設して動画を上げています！

「2匹の蛙の明暗」

2匹の蛙がミルクの入った壺に落ちました。1匹は「もう終わりだ」と泣き、溺れ死ぬ覚悟をしました。しかし、もう1匹は諦めず、何度も何度も脚をばたつかせました。すると、脚が固い地面を捉えました。

何が起きたか？蛙が脚をばたつかせている間に、ミルクが固まってバターに変わったのです。

アドラー100の言葉より

(私の大好きな蛙の話です。あなたが今やれることを精一杯やりましょう！)

<あとがき>

肯定的な価値に根付いていない責任感は、破壊的になりかねません。今ウクライナで起きている一連の出来事から、AP的な関わりがどれほど大切なことか、リーダーさん方も深く考えていらしゃることと思います。お互いを尊敬する気持ちや、人類全体の幸福を願う心。APを伝えることで、地球人としての在り方を多くの人に知ってもらい、子どもたちを導くお手伝いをする。それが世界をより良くすることに繋がると信じて、これからも活動していこうと思います。(畠中)



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2022 発行者 APジャパン
代表 野中 利子
副代表 畠中 愛子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (本部)

電話：090-8391-3196

FAX：092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

季刊誌「リンク」は年4回発行しています。
ホームページで自由にご覧になれます。